

無人航空機のレベル4実現に向けた 国土交通省の取組について

令和2年7月9日
国土交通省
航空局安全部安全企画課

- ◆ 交通政策審議会 航空分科会 技術・安全部会の下に「無人航空機の有人地帯における目視外飛行（レベル4）の実現に向けた検討小委員会」を設置
- ◆ 本年3月にとりまとめた基本方針に基づいた具体の制度や審査体制等について審議

<検討スケジュール>

R2.3/31 制度設計の基本方針の策定
R2.6/29 第一回検討小委員会の開始

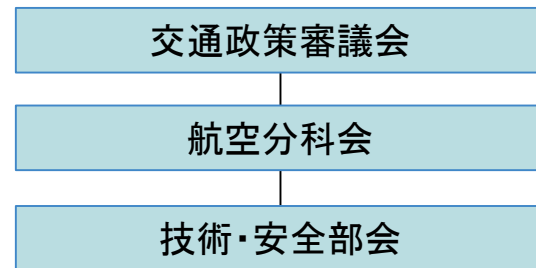
(検討項目イメージ)

- ① 飛行方法毎のリスクに応じたカテゴリーの具体的分類
- ② 機体: 認証基準の内容 等
- ③ 操縦者: ライセンス基準(年齢制限、身体要件等)の内容 等
- ④ 運航ルール: 遵守させる事項の具体的内容 等
- ⑤ 機体認証、操縦ライセンスの審査に係る民間審査機関の活用方法 等

R3.1月頃 最終とりまとめ

<委員>

氏名	役職
李家 賢一	東京大学大学院工学系研究科 教授
轟 朝幸	日本大学理工学部交通システム工学科 教授
戸崎 肇	桜美林大学 ビジネスマネジメント学群 教授
松尾 亜紀子	慶應義塾大学理工部 教授
米田 洋	帝京大学理工学部航空宇宙工学科 教授
伊藤 恵理	東京大学大学院工学系研究科 准教授



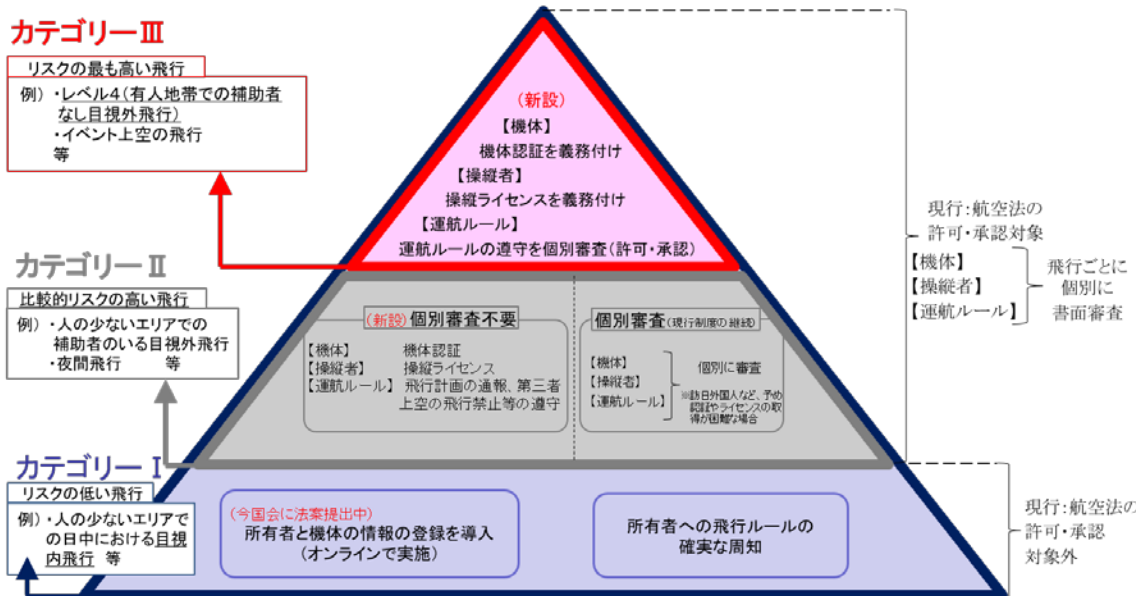
無人航空機の有人地帯における目視外飛行（レベル4）の実現に向けた検討小委員会

<オブザーバー>

氏名	役職
鈴木 真二	日本UAS産業振興協議会(JUIDA) 理事長 / 日本無人機運行管理コンソーシアム(JUTM) 代表
野波 健蔵	日本ドローンコンソーシアム(JDC) 会長
佐々木 徹	日本航空宇宙工業会(SJAC) 技術部(航空) 部長
阪口 晃敏	日本産業用無人航空機工業会(JUAV) 会長
神林 喜彦	日本ラジコン電波安全協会(RCK) 専務理事
長尾 牧	全日本航空事業連合会 ヘリコプター部会 運航委員会 特別委員
安藤 尚敏	日本航空機操縦士協会(JAPA) 委員
その他、関係省庁(内閣官房、警察庁、経済産業省、総務省)	

制度設計の基本方針(令和2年3月31日官民協議会決定)

- ① レベル4の実現にあたり、リスクの最も高い飛行についてはこれまで以上に厳格に安全を担保するため、機体の信頼性を確保するための機体認証、操縦する者の技能を確保するための操縦ライセンスの取得を必須とするとともに、運航管理体制については個別に安全体制を審査
- ② 比較的高いリスクの飛行については、機体認証、操縦ライセンスの取得、運航管理規則の遵守前提に、個別の許可承認を省略し、更なる安全かつ円滑な飛行環境を構築
- ③ 機体認証、操縦ライセンスの審査については、民間の審査能力を活用



検討小委員会における主な検討項目(案)

(全般)

“比較的高いリスクの飛行(カテゴリ II)”や、“リスクの最も高い飛行(カテゴリ III)”は、飛行する場所における人等の蓋然性や飛行方法の困難性等を考慮して整理すべきではないか。

(機体認証)

申請者に過度な負担とならないよう、例えばカテゴリ III では、有人機同様に設計、製造及び実機検査が必要とするが、カテゴリ II では審査を簡略化する等の工夫が必要ではないか。

(操縦ライセンス)

操縦特性や飛行方法等を考慮し、どのような操縦ライセンスの限定を設けるべきか。

(運航ルール)

これまで飛行マニュアルの形で順守させている運航ルールについて、法令等に位置付けるべきものは何か。

(民間能力の活用)

機体認証や操縦ライセンスに民間能力を活用するにあたり、当該組織に求められる能力は何か。

等